

令和4年度第2回相馬市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和5年2月15日（水）

開会 午後3時30分

閉会 午後4時30分

2 開催場所

相馬市役所 3階 庁議室

3 出席した構成員

相馬市長	立谷秀清
教育長	福地憲司
教育委員	関根進
教育委員	菅野明彦

4 欠席した構成員

職務代理者	宗形明子
教育委員	森陽子

5 事務局関係

（相馬市）

企画政策部長	佐藤芳男
企画政策課長	奈良信寛
企画政策係長	森洋人

（相馬市教育委員会）

教育部長	横山英彦
生涯学習部長	赤石澤珍夫
総務課長	只野聡一

6 傍聴人

なし

7 協議事項

（1）重点的に講ずべき施策

・「相馬市教育振興基本計画2023」の策定について

8 議事の経過

1 開会（企画政策課長）

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協議

（1）重点的に講ずべき施策について

・「相馬市教育振興基本計画2023」の策定について

●協議結果

事務局提出案「相馬市教育振興基本計画2023」を了とする。

●協議内容

(事務局より別紙資料により概略を説明)

第1編 序論

第1章 計画策定の方針

第1節 計画策定の趣旨(P.1)

横山英彦教育部長 現在の相馬市教育振興基本計画2017の計画期間が令和4年度までであり、令和5年度から令和9年度までの5年間に重点的に取り組むべき施策を明らかにするために、相馬市教育振興基本計画2023を策定するものであります。

第2節 計画の概要

2. 計画の位置づけ(P.2)

横山英彦教育部長 計画の位置づけとしては2つあります。1つ目は、教育基本法第17条第2項に基づく「相馬市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」となるもの、2つ目は、相馬市の総合計画「相馬市マスタープラン2017」の教育分野の個別計画という位置づけになります。

第2編 基本構想

第1章 基本理念(P.8)

横山英彦教育部長 基本理念は、平成27年の相馬市総合教育会議で決定した相馬市の教育の基本理念である「地域づくりを支え、心豊かに力強く生き抜くひとづくり」を継続します。

第2章 本市教育の将来像(P.8)

横山英彦教育部長 現下の時代は予測が困難で不透明な時代と言われる中で、市民一人一人が充実して暮らすことができるような資質や能力を身につけられる教育が必要だと、教育委員会としては考えております。そのため、教育基本法第3条で定めております生涯学習の理念を実現できるような教育を目指していきたいということを、教育の将来像として据えております。そのため、今回の計画につきましては、施策の項目立てを、これまでの「学校教育、生涯学習、文化、スポーツ」から、「生涯学習、文化、スポーツ、学校教育」に順序を入れ替えました。

第3章 基本目標

第1節 生涯学習

1. 生涯学習推進体制の充実(P.9)

赤石澤珍夫生涯学習部長 市民一人一人が、デジタル化の恩恵を享受し、いきがいをもって暮らすために、多様な事業や学習内容の講座の企画運営に努めることを目標としております。

6. 公民館活動の推進(P.10)

赤石澤珍夫生涯学習部長 市民の学習ニーズやデジタル化する社会に対応した講座の開設・運営などを目標として設定しております。

第2節 文化

3. 文化財の拡充と活用(P.11)

赤石澤珍夫生涯学習部長 現在災害復旧のため休館中ですが、歴史資料収蔵館の充実、文化財の調査研究と展示公開により市民の教養を育てていくこととしております。

4. 身近な文化振興の拠点としての市民会館(P. 11)

赤石澤珍夫生涯学習部長 様々な文化活動を後押しする利用相談・調整に当たるとともに、自主事業の企画開催にも力を入れることを目標としております。

第3節 スポーツ

2. スポーツを支える人材の育成と施設の維持管理(P. 12)

赤石澤珍夫生涯学習部長 少子高齢化に伴い、スポーツをする人材、また支える人材どちらも減少傾向にあります。人材の育成に取り組むために、スポーツ推進委員や体育協会などとの連携強化に取り組むとともに、老朽化する施設の適切な維持管理に努めることを目標としております。

第4節 学校教育

2. 生き抜く力を育む学校教育の充実(P. 12)

横山英彦教育部長 義務教育については、子ども一人ひとりが社会において自立的に生きる基礎を養うという大目標があります。引き続き、必要な能力を「汎用的読解力の向上」と位置づけ、現在取り組んでいるRST等を活用した汎用的読解力の向上に取り組んでいきたいと考えています。また、これまでの結果より、履修事項の定着と、自ら学ぶ習慣を身につけるということが必要と捉えており、家庭と連携して、家庭での学習に取り組んでまいりたいと考えております。

2. 学校施設の復旧と教育環境の適正管理(P. 12-13)

横山英彦教育部長 老朽化した学校施設の改修につきましては、中村二中の新築、日立木小の大規模改修で、一通り終わったものと考えております。今後5年間につきましては、適切な維持管理に重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

第3編 基本計画

第1章 生涯学習

第1節 生涯学習推進体制の充実

(2) 生涯学習意識の啓発と多様な学習内容の企画運営(P. 14-15)

赤石澤珍夫生涯学習部長 主な施策の1つとして、ソーシャルメディアを活用した情報発信、具体的には、出前講座等について、LINE、Twitterで情報発信をしたり、その動画をYouTubeで公開したりするなど、デジタル化につながる取り組みを推進することとしております。

第3節 男女共同参画社会づくりの推進

(3) 社会環境の整備(P. 19)

赤石澤珍夫生涯学習部長 男女共同参画の視点に立った防災・災害復興体制の確立については、地域防災対策室、女性消防隊と連携して取り組むこととしております。

第6節 公民館活動の推進

(1) 地域づくりを目指した公民館活動の推進(P. 23)

赤石澤珍夫生涯学習部長 社会教育指導員を中心とした学校との連携による学習支援の推進、もう1つは、社会福祉協議会と連携し、交通手段のない高齢者などの引きこもり予防を目指し、送迎の実施、こちらは既に公民館職員によって実施されておりますが、この取り組みを新たに記載しました。

(2) 地域教育力の向上を目指した学習機会の拡充と情報発信(P. 24)

赤石澤珍夫生涯学習部長 主な施策の1つとしまして、現在実施中ですが SNS (LINE) を活用した特別企画講座の受講生の募集を新たに挙げています。さらに、松川浦ガイドの会を講師に招いた「相馬のお魚教室」、また世界各地のコーヒー豆を使った「バリスタ講座」などを開催し、その結果、これまで公民館との縁が薄かった若い世代の講座受講者が増えている状況でございます。

(3) 特色ある公民館活動の推進(P. 24)

赤石澤珍夫生涯学習部長 主な施策の1つとして、全ての公民館において、「スマートフォン講座」を開催する計画としており、市民が誰一人取り残されないデジタル社会を目指し、ライフステージに応じた講座を目指した取り組みを継続して行ってまいります。

第2章 文化

第4節 身近な文化振興の拠点としての市民会館

(2) 市民会館の利活用促進(P. 32)

赤石澤珍夫生涯学習部長 市民会館の利活用促進を図るために、様々な文化活動を後押しするため、利用相談・調整に当たるとともに、「未来への志事業」をはじめとした自主事業の企画開催にも力をいれることとしております。

第4章 学校教育

第2節 生き抜く力を育む学校教育の充実

(1) 確かな学力の育成(P. 41-42)

横山英彦教育部長 現在取り組んでいる RST を活用した読解力向上への取組、ICT の積極的な活用を計画に記載しました。家庭との連携については、今までは家庭学習のことは各学校にお任せしておりましたが、こちらを、各学校と連携のうえ相馬市一体となって組織的に取り組んでまいりたいと考えています。

(2) 豊かな心の育成と生徒指導の充実(P. 42)

横山英彦教育部長 昨今問題となっております虐待・ヤングケアラー対策として「要保護児童対策地域協議会等関係機関との連携（虐待・ヤングケアラー対応）」の項目を追加しております。市保健福祉部とも連携して取り組んでまいります。

(8) 地域社会との連携(P. 45-46)

横山英彦教育部長 子どもたちの郷土愛を醸成するための一助と致しまして、今年度開催した「相馬市子ども議会」は、小学校6年生の子どもたちに、相馬のまちづくりに関心を持ってもらいたいということで開催しており、これからも開催してまいりたいと考えております。また、来年度から移行期間となる学校部活動の地域連携については、スムーズに移行するための環境整備として、地域の関係者や生涯学習部と連携して取り組んでまいります。

第3節 学校施設の復旧と教育環境の適正管理

(2) 学校施設の安全性の確保と機能性の維持(P. 49-50)

横山英彦教育部長 学校施設につきましては、老朽化したものはなくなりましたので、今ある施設を適切に管理すること、また有効活用するために知恵を絞ってまいりたいと考えております。

(協議)

菅野明彦委員 生涯学習に重きを置くということですが、出前講座の内容に関して、これからどのような講座を増やしていくか、あるいは、いままでやっている講座を引き続きやっていくか、この点が一番大事なのではないかと思います。

立谷秀清市長 講座のメニューですね。

菅野明彦委員 メニューは、県内外の市町村の内容を参考にしながら、講座数を増やすか、あるいは、バリエーションに富んだ講座を開設していくのが大切だと思います。あとは、講師が一番の問題だと思います。相馬だけで補えないのであれば、どこかから連れてくるとか、まだまだ眠っている講師もいると思いますので、探す必要があると思います。

立谷秀清市長 そうですね。出前講座をもうちょっと吟味して、ということですね。

菅野明彦委員 そうですね。先ほど出ましたが、お年寄りだけではなく、若い人を引き込むような講座を、考えていくことが大切だと思います。

立谷秀清市長 お年寄りが多いですね。参加者に。若い人を引き込むこと。はい。

関根進委員 公民館にいかにか若い人を入れられるか、それが地域の活性化になるのだろうと思います。SNSを利用して、とありますが、なかなか足が遠のいている状態ですので、何が若者を公民館に引きつけるか、考えていければという風には思います。あとは、ニュースポーツ、誰でもできるような新しいスポーツ、といった面で、相馬と言えばこれだ、というのがあっても良いのかなとは思いますが、それが、現在の相馬で言えばパークゴルフということになるのかも知れませんが、公民館でいろいろ知恵を出してやっていますけれども、そういうものができればいいのかなと思います。

立谷秀清市長 それは生涯学習という観点で？

関根進委員 そうですね。全てにおいて、健康づくりとか、そういうところも含めてだと思いますけれども。スポーツ指導員ですとか、そういう人の力を借りてやることになると思います。

立谷秀清市長 スポーツ指導員ですね。これは今、中学校の部活の指導員を果たして確保できるかというのが大きな問題となっています。我々としては、場所の提供ということではやってきました。例えば、アリーナ第二体育館を造る時に、太極拳などで使えるように中二階のところに鏡のある部屋を造っています。場所の提供は、要望と費用のバランスを考えながら、できるだけ汎用性のある形で考えては来たのだけれども、おっしゃるように、指導員の確保となったときに、やはり全てのスポーツというのはなかなか難しくなってきましたから、ある程度ジャンルを絞ってやっていかなければならない。ジャンルを絞るとなると部活ですね。今社会的な大問題となっているのはそちらの方なのですね。ですから我々としては指導者の発掘、ということを考えなければいけないし、指導者の維持体制ということも考えていかなければならない。これは財源の問題等々ありまして、今、例えば全国市長会の方で文科省といろいろ話し合っています。例えば部活の指導員のために人材のプールを作れだとか、その財源をどうするんだとか、いろいろ話しているのですが、非常に大きな課題となってきています

ね。私は、財源の問題よりは人材の方がはるかに大事だなと思いながら、この問題をずっと見てきております。いま仰ったことに相通ずるところもありますから、そこはそこで頑張っけてやっていきたいと思っています。

立谷秀清市長 それと、菅野委員の出前講座の話、これも人材の発掘が必要だと思ひます。まず市内にいる、ある程度出前講座の講師になれるような人を発掘して行くこと、他自治体からの情報収集、他自治体でどういふことをやっているか、各自治体ホームページを持っていますから、これは事務局の方で調査してください。

立谷秀清市長 この間、散歩してましたら、清水橋から、県道 228 号線を歩いて行くと左側に階段が見えるんですよ（中村字本町付近）、なんだろうと思っけて登っていくと、鳥居がある。その上にまた階段があつて、登っていくとまた鳥居がある。小さな神社があるんですよ。岡田神社と書いてある。多分、相馬家のご家老の岡田さんの神社ではないかと思ひますね。あその下に畑をやっているお兄さんがいたので、聞いたら、氏子をやっている。その氏子が、どういふ由来の神社なのか分からないんですよ。誰が何のために何を奉っているのか、分からないんですよ。これはね、郷土史の発掘のために必要かなと思っけて歩いて来ました。それと、最近よく散歩をするんですよ。市内を 1 万歩ほど歩くと、小さな神社や、氏神のようなものがたくさんある。それを解析するだけで結構興味があるなと思ひます。そういうことも生涯学習の一つのテーマになるのではないかと思ひながら、埋もれたテーマがたくさんあるなと思っけて、出前講座の事は見てきました。

立谷秀清市長 それでは、私の方から、いくつか意見を述べさせていただきます。まず、教育についてなのですが、もう少し教育の意味を掘り下げる必要があるかと思ひます。教育の一つの目的として、人生の幸せというのがあるなと思ひますね。例えば今、大河ドラマで徳川家康をやっていますが、歴史の知識があるかどうかで、あのドラマの見方が全然変わって来ますよ。やはり、教養というのは、人生の幸せのためにあるのだなと、つくづく思ひます。そういう発想にまず立たないといけなひ。だから、RST は、学力向上の為だけではなくて、読解力というのは、教養のために必要だろう、教養は人生の幸せのために必要だろう、そういう意識も必要だろう。私が RST を特に推奨するのは、学力の為だけではなくて、読解力をつけることが、人生の幸せにつながる。つまり、教養を持つというということは、子どもにとって幸せな人生につながることだろうな、と思ひます。日本の義務教育は、全般的な基礎知識をうまく知らしめてくれるように出来ているわけですよ。それに加えて読書量がその人の教養を支えているなと思ひますね。受験勉強とはまた別に、そこは押さえておかなければいけなひだろうと思ひます。RST のもう一つの側面として、読解力+読書量。ここを 1 つのポイントに考えてもらいたいと思ひます。それと、教育、キャリア教育もそうなのですが、これは人生設計の 1 つの手段なですよ。人生設計と学力・勉強とがつながっていかないといけなひだろうと思ひます。私が企業誘致に努力したのは、相馬市の子どもたちのためだったはずなですよ。良い企業が来たところで、その企業で仕事しながら自分の人生を固めるということが、可能なよな力をつける必要があるなですよ。そのことを意

識してもらう為に、キャリア教育をやっている。そのことがその通り反映されないことに、忸怩たる思いをしています。ですから、もうちょっと相馬の子どもたちが、せつかく誘致した企業に入ってもらえるように考えていかなければならない。そのことが相馬の子どもたちは分からない。それは、キャリア教育の足りなさなのです。男性の生涯未婚率と非正規労働者というのは非常に大きな関わりを持っていて、人口減少社会の1つの大きな課題なのです。キャリア教育は人生設計につながるためにやっている訳ですから、そのために教育がいかに大切かということ子どもたちが自覚するためにやっているのです。人生設計をしっかりとさせることが、キャリア教育の一番の目的なのですが、どうも、ちゃんとできていないなという感じはします。

立谷秀清市長 それと、ボランティアという言葉が資料(P.20)に書いてありますが、ボランティアは、生涯学習の一環というだけではないですよ。「共生社会」というのが今後の1つのキーワードになっていきます。ボランティアをどうやって推進するか、ボランティアにどういう意味を持たせるか、生涯学習部だけの問題でなくて、全般にかかる問題になってきます。実際に、市内のボランティアの運用が上手くできるか、災害の時に県外からボランティアが来ますが、市内の人が市内のためにボランティアをすることは、非常に意味があることです。東日本大震災の事を思い出すと、企業がしっかり後ろ支えをしているボランティアは非常にありがたかった。パナソニックの労組から来たボランティアは極めて有効だった。あと4年前の広島集中豪雨の時、呉市長に頼まれて、私はIHIに頼みました。IHIの人達が呉に行ったんですね。とても立派な活動をしたと呉市長が言っておりました。企業で訓練された人達は極めて有効ですね。よそ様がひどいときに、こちらから出せるように考えておかなければならない。対外的なボランティア、それから内側(市内)に向けてのボランティア。常日頃から考えておいた方が良いでしょうと思います。今、社会的な問題になっているのですが、消防団員が少ないのですよ。このことに対して、消防団員というのはボランティアの要素がありますから。生涯学習の一部として考えなければならぬですね。防災教育というのはこれは間違いなく生涯学習の一部です。消防団の検閲式の際に企業の皆さんを呼ぶのはなぜかという、消防団員は、入っていない人と比較して、報告の仕方から、キビキビしていて、優秀です。実際に災害になったときに全然違ってくると思います。そういうことを分かって欲しくて企業の方を呼んでいます。昔、アルプス電気の自衛消防団を見たことがあります、とても素晴らしかった。防災教育は、これからの生涯学習に大きな役割を果たしていくと思います。

立谷秀清市長 それから、ヤングケアラーの問題が出てきましたけれども、ヤングケアラーの一番の問題は、教育の機会から外れるということなのです。ヤングケアラーについては、調査しないと分からないのですが、一番調査してあぶり出せるのは学校当局なのです。実際の家庭の問題解決は社会福祉の分野になってきますけれども、ヤングケアラーというのは調査が大前提ですから。そういった意味では、学校教育の現場で目を光らせるということです。ヤングケアラーの一つの大きな目安は、朝食を食べてきているかなのです。食育などと言う前に、まず朝食を食べてきているか、

朝食を食べないで、食育なんてあり得ないですから。このことについては、学校教育の現場で、子どもたちからしっかり調査する。朝食を食べていない子どもは、その子どもの栄養状態が、夏休みにどうなるのか、というのを考えないといけないですね。幸いにして相馬市ではこども食堂を展開するような状態にない、と私は認識しているのですが、果たして本当にそうなのか、ちょっと疑問なところもあるし、朝食を食べていない子どもたちが、夏休みの栄養状態がどうなるのか、心配なところではあります。これはヤングケアラーと似たような問題ですから。学校での調査が大きな問題となってきます。これはしっかりやって欲しいと思います。

福地憲司教育長 相馬市にお世話になることになり、始めに、相馬市の子どもたちが、これからの世の中を生き抜いていくために、何が必要になってくるか、どんな計画があるのか、という点でまず読み込んだのが、相馬市教育振興基本計画2017で、まさに私のスタートがこれだったのですが、残すべきこと、なくても良いこと、または付加しなければならないこと、これがだんだん見えてきました。結果的にはかなり大胆に、かつ慎重にメスを入れたつもりです。不易の部分とこれから子どもたちに求められる必要な力、いわゆる流行の部分、それを入れ込んだものです。これは、基本的には絵に描いた餅ではなくて、常に立ち返るものだと思っておりまして、そういった意識で作らせて頂いたものです。5年間、大事にしていきたいと思います。市長や委員から様々な意見を頂きました。その中で非常に心に響いたのが、市長の、教育について意味を掘り下げることがまず必要なんだと言うこと、まさにその通りだなという思いで聞かせて頂きました。そういった視点から、この基本計画をもう一度見直して、それぞれの具体的な施策がどうなのかということ、その検証が必要なのだろうなという風に思っています。もう一度咀嚼しながら、相馬の子どもたちをイメージしながら、何が 필요한のか、何が足りないのか、というのをもう一度精査していきたいと思います。出前講座については、私として少しイメージするものがあって、学校教育の方でも家庭を巻き込んで家庭学習を強化していきたいというのがあるので、出前講座についても、家庭教育に関わること、例えば義務教育に通わせる保護者の方を呼んだ講座を企画するなど、そういったイメージもちょっと出てきました。

立谷秀清市長 細かい点については、いろいろあるかと思うのですが、それについては教育委員の方からその都度ご指摘頂いて、担当の方と話をしながら、今日の所はこの案を了解して、進んでいく、必要に応じて改訂していくということ。それから、今後デジタル化社会をどうやって利用してやるかということも考えないといけない。相馬はマイナンバーカード普及率を頑張って上げてきた訳ですから、その分の実益をデジタルに特化した予算を取ってくるというところに持って行かなければならない。また引き続き、みんなで知恵を出し合うということで、今日の基本計画に対する了解ということにしたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なしの声)

立谷秀清市長 そのようなことで、今日の会議を終わります。